

114A – ノルマンディーで、商店主たちが万引き 容疑者の写真を掲示

ノルマンディー地方では、一部の商店主が万引きの容疑者とされる人々の写真を店のショーウィンドーやSNSに掲載しています。目的は、繰り返される盗難を防ぎ、こうした行為を思いとどまらせることです。

あるビスケット店では、商品を盗んだと疑われる人々の写真が掲示されています。写真には盗難が起きた日付や、盗まれた商品の金額が記載されていることもあります。

店長によると、防犯カメラだけでは盗難を防ぐのに十分ではありません。警察に複数回被害届を提出したものの、これまで逮捕者は出ていません。

店長は、人々を恥さらしにすることが目的ではなく、自分たちが特定されていることを伝えただけだと説明しています。そして、新たな盗難を防ぎ、店を守りたいと考えています。

ほかの商店主の中には、SNSで容疑者の写真を公開している人もいます。その結果、一部の盗品を取り戻せたと主張する人もいます。

しかし、この方法には多くの批判があります。商店主団体の代表者の中には、道徳的・倫理的な問題があると考える人もいます。有罪が確定する前に人を公にさらすべきではないという意見です。

フランスでは、無罪推定の原則が法律で守られています。裁判所が有罪判決を下すまでは、容疑者は無罪とみなされます。そのため、容疑者の写真を公表することは違法となる可能性があります。

それでも、一部の商店主は、店舗での盗難対策を強化するために、このような掲示を合法化してほしいと考えています。

114B – プロヴァンスのバラガラ・コル＝シュル＝ルーで 祝われる

毎年春になると、アルプ＝マリタイム県のラ・コル＝シュル＝ルー村では、バラをテーマにした大きな祭りが開催されます。この催しには数千人の来場者が集まり、花を鑑賞したり、イベントを楽しんだり、地域の伝統を発見したりします。

この祭りの主役は「センティフォリア（五月のバラ）」で、かつてグラースの香水産業で使われていた品種です。

来場者は特にその香りと美しさを楽しみます。多くの人にとって、この花は春や自然、そして幸福感を象徴しています。村の通りはバラで飾られ、一日を通してさまざまな催しが行われます。

この祭りは1954年から続いています。当初は花で覆われた大きな山車が村を巡行していました。住民たちは長い花のガーランドを作り、その装飾に積極的に参加していました。その数年後には、女優のブリジット・バルドーが「バラの女王」に選ばれたこともあります。

現在では伝統の形は少し変わりましたが、祭りの精神は受け継がれています。来場者はバラで作られたドレスなどの独創的な作品を鑑賞したり、地元生産者の仕事を知ったりすることができます。

一部の農家は香水用のバラを栽培しています。花びらは蒸留によって加工され、香水や化粧品に使われる精油やフローラルウォーターが作られます。

また、この祭りは庭に植えるバラを購入する機会でもあります。来場者は色や香り、開花期間などを考えながら、自分に合った品種を選ぶための助言を受けます。

最後には色とりどりの花びらを空中にまくイベントが行われ、参加者に香り豊かな思い出を残します。

Questionnaire

1. なぜ一部の商店主は万引き容疑者の写真を掲示しているのですか。
 2. なぜビスケット店の店長はこの方法が必要だと考えているのですか。
 3. 商店主たちによると、この方法の主な目的は何ですか。
 4. なぜこの方法は批判されているのですか。
 5. 容疑者の写真を掲示することで、どのような法的原則が侵害される可能性がありますか。
-
1. ラ・コル＝シュル＝ルーの祭りで主役となる花は何ですか。
 2. この祭りは何年から続いていますか。
 3. センティフォリアのバラは昔、何に使われていましたか。
 4. 生産者たちはどのようにしてバラの花びらを加工しますか。
 5. なぜ来場者はバラ苗の生産者に助言を求めるのですか。